

麻酔について

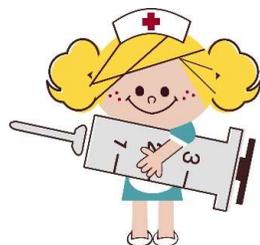
愛知県がんセンター
麻酔科部

手術に際して麻酔が必要なのはなぜ？

- 手術は体にメスをいれるため、痛みなどの刺激により大きなストレスが生じます。
- 麻酔によって、痛みなどのストレスから患者さんの体を守ります。
- 麻酔によって手術中の患者さんの安静を保ち、手術を安全に行うことができます。

手術前に必要な検査を行います

採血



心電図



心エコー



胸部レントゲン



肺機能検査



トレッドミル



入院後、麻酔科医による診察があります。

麻酔科医による術前診察

麻酔方法の説明



患者さんの全身状態や病歴、手術内容を考え合わせて、麻酔科医が適切な麻酔方法を提示し、説明します。

問診で、以下のようなことをお聞きします

- 心臓や肝臓、腎臓、肺、脳などに持病はありませんか？
- 常用している薬は？
- 喘息の既往は？
- 食べ物、薬のアレルギーは？
- 血が出やすい、止まりにくいなどの症状は？
- 患者さんや家族に悪性高熱症の疑いはありませんか（全身麻酔で問題があった人はいませんか）？
- ぐらぐらの歯や義歯はありませんか？
- 口は大きく開けられますか？
- 頸の病気などはありませんか？

など

麻酔の種類

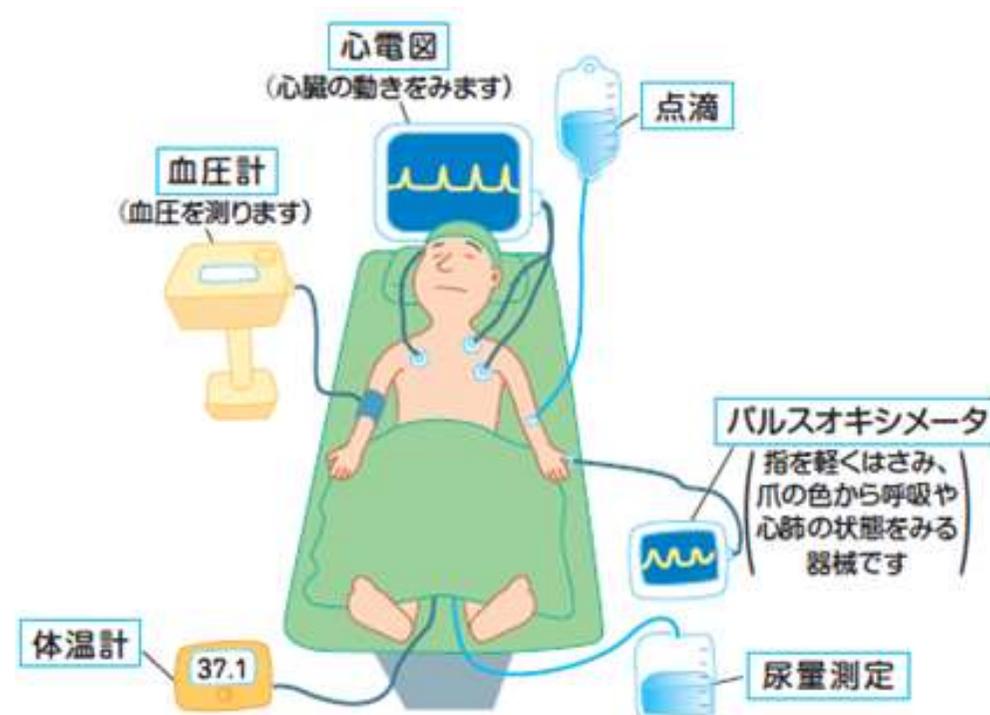


全身麻酔と局所麻酔を併用することもあります。
担当麻酔科医が最も安全と考えられる麻酔法を選択します。

手術当日のながれ

手術当日、多くの場合は歩いて手術室に入室します。

- 手術室に入室したら、本人確認をして、モニター類をつけます。
- 麻酔や手術のために必要な点滴をします。
- 人工呼吸の管、胃液を抜くための管、体温計や尿量測定のための管は麻酔がかかってから挿入します。



全身麻酔

①全身麻酔開始



②挿管

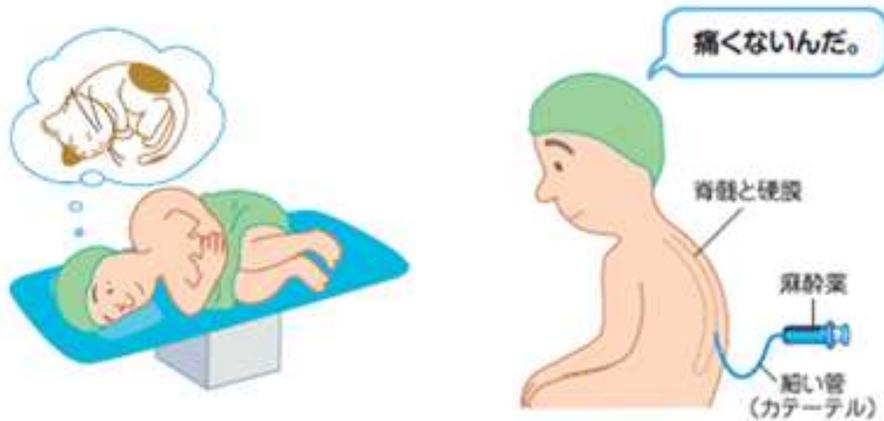


③その他必要な準備をして手術開始

- マスクを当てて酸素を吸っていただきます（体の中に酸素を取り込むことで安全性が上がります）。
- その後点滴から意識をなくすための麻酔薬を入れると、間もなく眠ってしまいます。
- 次に目が覚めた時には手術が終わっています。

硬膜外麻酔

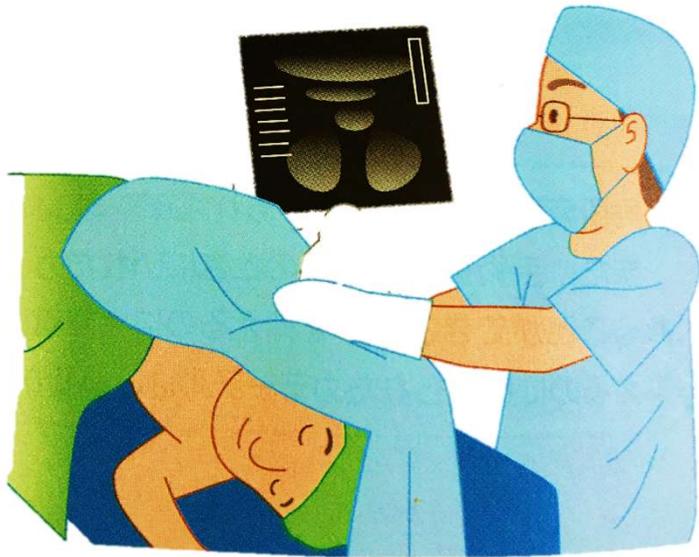
胸、おなか、足の手術のうち、術後、痛みが強くでそうな手術の時にを行います。全身麻酔に合わせて行います。



- 全身麻酔の前にカテーテルを挿入します。
- 背中をネコのように丸くした状態になります。
- 背中に痛み止め（局所麻酔）をした後、針を通してカテーテルを硬膜外腔（背骨の中の脊髄の近くにある場所）に挿入します。

末梢神経ブロック

全身麻酔に合わせて行うことが多いです。



- 神経の走行にそって麻酔薬を注射し、その領域の痛みをとります。
- 通常は全身麻酔と併用して手術後の痛み止めに利用します。
- 硬膜外麻酔ができない患者さんに適応されることもあります。

脊髄くも膜下麻酔（下半身麻酔）

下半身の比較的短い手術の場合、行うことがあります。



- 細い針を使って脊髄液が満たされている場所に局所麻酔薬を入れ、脊髄を麻痺させます。
- この麻酔が効いているあいだ(3～6時間)は、感覚が無くなり、足も動かせなくなります。
- 麻酔をする時の体位は硬膜外麻酔の場合と同じです。

目が覚めるのはいつ？

- 手術が終了したら、麻酔薬の投与を中止します。
- 目が覚めるまでの時間は、手術の種類や患者さんの状態で異なります。
- 目が覚める兆候が見られたら、声をかけますので、目を開けたり、手を握ったりして目が覚めていることを伝えてください。(喉に管が入っているので声はできません)
- 血圧、呼吸状態、血液の酸素化に異常がないことを確認して、人工呼吸の管を抜きます。
- 手術室を出る時には意識が戻っています。
- 手術によっては麻酔から覚まらず、集中治療室に入室します。

手術の後ってすごく痛いのか？

- 手術や麻酔の種類によっては、麻酔から覚めた直後から痛みを感じることがあります。
- 手術中から痛み止めを使用していますが、効き具合には個人差があります。
- 痛みを我慢しないで遠慮なく主治医や看護師にお伝えください。
- 術後の痛み止めの注射やお薬はあらかじめ準備してあり、適宜使用していくので安心してください。

～合併症を減らすために麻酔科医からのお願い～

①手術前には禁煙を！

- 全身麻酔の場合、人工呼吸器につなぐため、管による刺激で、咳や痰が出たり、気管支が収縮する場合があります。
- 痰や咳などによって呼吸が妨げられると肺炎になるリスクが高まります。
- 気管支が収縮してしまうと、手術中に脳や臓器に十分な酸素が供給されず、酸素不足になることがあります。
- タバコによって身体の免疫力が低下していると、術後の傷が感染しやすくなったり、傷の治りが悪くなったりします。
- 少なくとも**手術前1ヶ月以上前には禁煙**をお願いします。

②ひげは剃っておいてください。

ひげがあると、眠った後の麻酔マスクによる人工呼吸がうまくいかなかったり、人工呼吸のためのチューブのテープ固定が十分にできなくなったりします。

③歯がぐらついている場合は歯科でご相談ください。

歯がぐらついていると、麻酔中に歯が抜けて飲み込んでしまうことがあります。肺の方に入ってしまう可能性もあり、非常に危険です。

④喘息の方はかかりつけ医に全身麻酔をうけることをご相談ください。

手術中に喘息発作がおこると、人工呼吸がうまくできず、危険な状態になることがあります。安全性を高めるために、かかりつけの病院に全身麻酔の手術を受ける旨を伝えていただき、必要に応じて薬の調節をしてもらってください。

最後に

- 麻酔という医療行為には危険が伴いますが、危機的合併症の発生率は低く、麻酔は安全性の高い医療行為の一つであるといえます。
- しかし、100%安全な麻酔は存在しません。
- 常により安全な麻酔を目指し、我々麻酔科医は日々研鑽し、努力しております。